【来校者用】

地震発生時　行動マニュアル

緊急地震速報受信　　＞＞＞　　放送が流れる

毎年６月及び 12 月の 第１月 曜 日 の 17 時 45 分に、緊急地震速報の試験放送が流れます。

１．　揺れへの警戒

２．　全ての作業を中断

３．　ドアを開放　出口の確保

（数分たっても）揺れが来ない場合は、中断していた作業を再開

揺れが

同時に発生

グラッ！！ときたら　　＞＞＞　　身の安全を図る

1. あわてて外に出ない！　危険！
2. ドアを開放。出口の確保。
3. 机の下にもぐる、持ち物で頭を覆う。落下物から身を守る。

揺れがおさまったら

1. 負傷者の有無を確認。
2. 大きな地震の後には余震の恐れ。ガラスから離れ、室内の安全な席へ移動。
3. 安全が確認できた場合には、まずその場で待機。
4. けが人がいたら周囲の協力を求め可能な範囲で応急対応を行う。
5. 大きな揺れの後は、室内（フロア内）の利用者を１箇所にまとめ、静粛に。

大きい揺れだった

小さい揺れだった　＞＞＞　作業を再開

放送が入ったら　＞＞＞　放送に従う

放送が入らない

周囲にいる人と声をかけ合い
落ち着いて行動。

火災が起きたら初期消火　消火器は各階の廊下に設置（場所要事前確認 ）

1. 火災が起きたら初期消火。非常ベルで火事を知らせる。
2. 天井まで火が届いたら消火器では困難。無理せず119番通報。

避難するのはこのような時…

＊ 建物の破損がひどい、倒壊する恐れがある時。
＊ 火災が広がった時。
＊ その他、周囲の状況から避難の必要があると判断した時。
＊ 対策本部から避難指示があった時。

避難させる時、誘導する時　＞＞＞　パニックを最小限にくい止める

1. 避難をするときは荷物を全て持つ。避難をしたらすぐには戻れない可能性が高い！！
2. 出口に殺到しない。
3. 「おかしも」(お(押)さない、か(駆)けない、しゃべらない、もど(戻)らない)の徹底。
4. 身体に障がいのある方や高齢者、負傷者のサポートは必須。
5. 隣の部屋と声を掛け合い協力しあう。
6. 停電の場合は、誘導灯を目印に避難。
7. 上下階の移動は階段。エレベータは使用禁止。
8. 可能であれば、室内全員の退出を確認。

避難後の報告

1. 避難者数を確認。
2. 負傷者の人数を報告。
3. 対策本部が立ち上がったら報告。

災害後の作業

災害の規模により、様々な作業が発生する事が予想されます。ご協力ください。

学内にいる時に地震が発生した場合には、災害対応・復興対策にご協力ください。すぐに家には帰れないこともあるかもしれません。ご家族の方とは安否確認の方法を事前に相談しておいてください。